

毎月一四十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



和清山香 兼幹編 會市田上縣野長 所行發 所刷印 澤中

### 絹織工業と信州

石倉新十郎

現時の蠶絲業の趨勢を眺め、そして我が蠶絲専門学校の過去を省る時、茲に感想なき能はずである。學校創立に當つて既に絹業の總てを包含する理想の本に建設せられ、桑の栽培から始めて繅絲紡織の末に至るまで、一貫設備されたのである。然し當時の實社會状態より、主として養蠶次いで製絲に力を注ぎ、他は三次或は四次に考へられたのは當然である。だが化學だけは特別であつた。エンチーム發見以來俄に擡頭して來た化學は當時世人の視聽を集めたものである。我が校の當初から甚大な力を化學に注いだのも時流に従つた成り行きである。本校經費の中俸給々料實習經費を除いた經常費の六割は實に化學に投下され來り、遂に現在の絹絲化學部を、現出せしめたのである。勿論本校は學生の教育機關ではあつたが、同時に化學研究機關の觀を呈して居た。

時代は學校と無關係に推移して、現實の絹業界はみづから變遷して止まなかつたのである。製絲業は化學と沒交渉に年々機械化され、蠶業の不況は化學で救済する途はなく、昨今漸く輸出生絲を本邦で養蠶すべく餘儀なくされて來た。將來の我が蠶絲業は何れに赴かんとするか事實は常に世論と沒交渉に動く。超然と

自然の動向を遠見する人のみが豫知するのである。吾々近視眼者は唯直後に來る將來を推察するだけである。現在の我が蠶絲業は其の内容を改變するか、さもなければ新開地への進出以外發展の途は見附りそうもない。製絲業は純工業の正體に進む事と、絹織工業と運繼を密接にする事以外に途はなさうである。遂には絹製品完成工業即ち絹織業の發展のみである。生命を自然界に根附けて居る我が絹業は永遠に榮ゆべき運命を保有せるものと見る。人絹は我が敵では決してない。新開拓の前驅者である。補佐の良友であり共存共榮の侶である。今や世界の蠶絲業は東洋の獨占たらんとして居る。其の主權者たる天の使命は日本にありと考へるのである。之れは決して御都合良しの獨斷ではない。地球上の位置風土文化的經過、總ての方面から總括した歸結である。斯くして本邦の絹織工業の發展は實に宏大であり、之れ即ち天の使命を果す所以であるとなす。養蠶製絲の發展は此の使命を度外視して單獨に進む可き途は絶対にないと歸結する。

古來本邦の絹織業は邦家需要の範圍を出でなかつた。羽二重繻子の輸出を見るに至つて石川福井其他の絹織業が急速發展したのである。原料の供給不便な此等

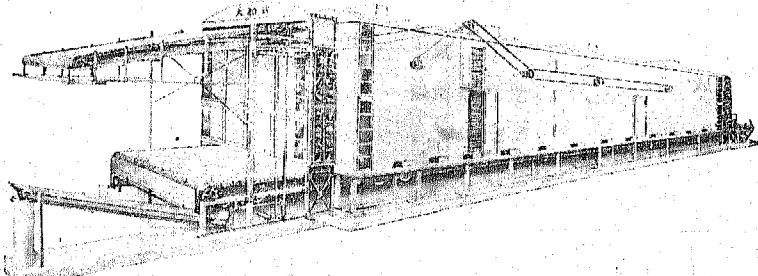
山本三六郎著  
化學純絹絲の工業的完成  
伊太利蠶絲學會編  
現況の衰退原因と其の改正  
菅原勇治著  
蠶絲業法規要論  
¥2.30 ¥1.50 ¥0.30  
市田上縣野長  
會究研學科絲蠶 所行發  
〔振替長野6413番〕

### 蠶絲問題一、二

福井 黒岩 覺

織物の高級化は結局生絲の使用とならんか。福井縣下七月中の人絹織物生産高は好況の波に乗り遂に百六万反と云ふ新レコードを作つた。毎月々々レコード破りの増産には一驚せざるを得ないのであるが人絹織物も順次高級化しつゝある事は注目し値する。即ち往時は人絹織物と云へば双人平とか双人紋が全を極めて居つたが昨今は之等平凡な下級品は漸減歩調を辿り繅絲系統の人絹縮繻ジョーゼ

### 現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



【型録贈呈】

一九三四年代表型

- 營業課目
- 特許大和式自動輸送乾燥機
  - 特許帶川三光式乾燥機
  - 特許やまざき乾燥機
  - 特許大和式熱湯自動還元機
  - 特許水野式改良ロールストル
  - 特許アイエム・コールセーダー
  - 特許アイエム・ストーカー

製作發賣元  
株式會社  
大和三光商會  
東京京橋區京橋三丁目二番地  
電話京橋(56)五三二〇番

ツトボイル及交織縮繻等の高級品が非常な勢で進展しつゝある。

昭和八年十二月と本年六月との織物變遷狀態を對比すれば次の如くである。

品名	昭和八年十二月	昭和九年六月	増減
双人平	七、六二〇	六、八四〇	減 七八〇
双人紋	三、九二〇	二、五五〇	減 一、三七〇
人絹縮繻	二、七二〇	三、八三〇	増 一、一一〇
人絹縮繻	二、七二〇	三、八三〇	増 一、一〇〇
人絹縮繻	二、七二〇	三、八三〇	増 一、一〇〇
人絹縮繻	二、七二〇	三、八三〇	増 一、一〇〇
人絹縮繻	二、七二〇	三、八三〇	増 一、一〇〇
人絹縮繻	二、七二〇	三、八三〇	増 一、一〇〇
人絹縮繻	二、七二〇	三、八三〇	増 一、一〇〇
人絹縮繻	二、七二〇	三、八三〇	増 一、一〇〇

例へば吾人に於いて考へて見ても判かる。相當の年輩に達すると時計が欲しくなる。最初はニツケル時計、ニツケル鎖で満足して居つた者も數年の間には他が來てどうかして金時計を持つて見たいと云ふ欲望が湧出し無理算段をして金時計を身に付けると云ふ事になる。

衣服に於ても之と同様最初は人絹平或は紋を纏ふて満足して居つた者も餘りに平凡且つ粗雑で他が來て高級な繅絲系統の着物を着たくなるのである。斯く人間の欲望には限りが無い爲め今後益々人絹織物も高級化する事は論を俟たぬのである。

而して高級織物では普通通糸よりもベンベルグ、ダイヤ、マルチ等の高級人絹糸が使用される事は當然である。最近生糸の値下りて之等高級人絹糸と生糸との格差が非常に少なくなつた爲め皮肉にも生糸がベンベルグ、ダイヤの代用品として使用される様になつたと同時に人絹と生糸との交織縮緬が非常に増加しつゝあるのである。

斯く織物が高級化するに従ひその原糸も高級なるものが使用される事は結局生糸が使用されるゝ如くなるにあらざるかと思はれる。

國用生糸は順次太物となる。内地向生糸も往時は十四中、二十一中が重要な位置を占めてゐたが最近人絹糸の使用が非常に容易なるのに刺戟され太物生糸が機

業家に歡迎される様になり十七中、二十八中、三十四中、四十二中と云ふ太物生糸が多く入荷を見る様になつた事は大いに研究すべき問題である。機業家としても合糸の手数が省け十七中より三十四中の方十貫で十圓位高値に賣買されて居る。人絹織に従事し居る職工が本絹織に代る事を嫌がつて居る有様であるから製絲家も人絹會社の如く機業家と膝を交へて懇談し機業家が使用し易い生糸を製出す事が必要である。之には内地機業各地に製絲試験場を設立し製絲工費の低減の研究を爲すと同時に機業家と密接なる關係を結び機業家が使用し易い將又機業工費の低減を計る様な生糸を製出す事が肝要と思ふ。(一九三四年、八)

### 蠶絲學雜誌七卷一號發刊御通知

近日中に蠶絲學雜誌七卷一號が發行される。もつと早く出すべきものであつたが、時節柄原稿の募集難と、編輯者の病臥等で延引したことは讀者諸氏に御詫びせねばならぬ。内容は左記の通りである。

#### ◎報文

- 一、蠶油分散系の研究(三) 蠶油エマルジョンの性質(一) 金子英雄
- 二、桑苗の斷根及其の栽植一年後の生育に就て 岡部康之
- 三、桑及二、三作物幼根の紫外線螢光物質の分泌に就て 山口定次郎
- 四、蠶卵の紫外線螢光に關する研究(豫報) 米澤俊吾
- 五、滿洲柞蠶繭絲に關する試験(一) 井上柳梧

#### ◎調査

ヒゲナガコナダニに關する研究 鍵谷傳

#### ◎資料

ギルに關する分類 香山清和

#### ◎抄録

攝氏關係溫度表 山崎武壽

尙次號は十一月に發行したいと思ふ。蠶閑の期、又燈下親しむべきの候、文の長短を問はず、各位研究調査の御寄稿を御願ひする次第である。

### 蠶絲學雜誌記念號原稿募集

鬼も笑ふ來年の事ではあるが、母校創立二十五周年記念祝賀會は間もない事になつた。此の秋に當り吾等千曲會は記念論文集として蠶絲學雜誌の記念號を發行する事に決定したので今から廣く原稿の募集を始めようと思ふ。蠶絲業の革命期を控えての蠶絲學界には必ずや、劃期的の研究もなければならぬ。秘藏された調査研究も相當に多数ある事と思ふ。願はくは會員並に會員外諸氏の多數御寄稿あらん事を。

寄稿規定 通常の雜誌の場合と同じ、但し記念號に掲載明記の事  
締切 昭和十年八月末日迄

### 板狀收絹法

茨城蠶試 中曾根長男

今に始まつた事でないが特に上簇法改良問題に著者は興味を持つてゐる。上簇法は養蠶飼育形態の變遷と共に常に移り變りあつて凡そ進歩してゐる如く考へられてゐるけれども、實際に之をよく理論立てて考究し改良されたものは誠に寒心に堪へぬと云ふ状態と云ふてよい。而も絹絲質其のもの、理化學的性質を考慮して行はれた研究は誠に少なく今後より多くの考慮が此の方面より進められる事と考へらる。勿論之も經濟的見地を没却して行ふ事は不可能だ。今日盛に唱導され出した自然上簇法(之は往年既に試みられてゐるが)は主眼を蠶兒生理と絹絲及勞力經濟に置かれたものであるが今尙ほ其の方法の感心出來ざる所多々あるを免れぬのである。然るに之に反して蠶兒には非生理的であるが絹絲の用途を考慮したる用途別上簇法中に入れられるものの中に板狀收絹法なるものが近頃頻りに盛に世論に評價されてゐるのを聞く。而も中央大新聞に堂々自ら劃期的大發明の如く書き並べてゐるのを見ると苦笑せざるを得ない。著者は此の上簇收絹法が既に昭和四年母校化學部井上博士の下に於て北澤孝一氏其他により考究せられた事實を知つてゐる。而し其の結果は種々苦心された程好結果を來したか否か不明に終つてしまつた。而し之が板狀收絹法の嚆矢ではないかと思ふ。此の收絹法は諸氏が既に御承知の如く蠶兒をして從來の固性たる管繭を行はしめずに板狀に一枚の布の如く平面的に吐絲せしめる方法である。故に蠶兒に取つては十分吐絲行爲を全し得ない成績を示すが之にて平均八〇—九〇%吐絲せしめ得る。俗に云ふ血繭を作らせるのであるから血繭の多く出る様な品種で實驗すれば結果は豫期以上になると思ふ。之等よりして將來の品種改良方面にも一考を要する様に

なつた。又琉球綿蠶の様に數十頭—百餘頭が共同の同巧繭を作る如き品種又は同巧繭多き品種等は之等の方面に大いに將來がある事と思ふ。而も都合よい事には琉球綿蠶は多化性蠶である。蠶蛆の絶滅を期待し得る。

其他蠶繭絹絲の化學工業の應用と共に將來の期待の甚大なるを考へらる。

以上の如き理由により、今後一層此の收絹法が考究され發達するものと考へらる。而して吾人は之れに對する研究成績を持合せぬが次に尾藤省三農學士が嘗試實驗に於て行はれた業績が世に埋れて居るを知り、敢て此處に掲載して大方諸兄の參考に資せん。

昭和八年秋蠶期八月十七日上簇せる國蠶支一〇五×日一〇號を用ひ稚蠶は普通育、四、五齡は條桑育にて、試験區は吐絲座の材料を異にせる次の七區を設け對照區として今式收絹法を用ひて普通上簇營繭せしめたり。

第一區一分目の絲綫、第二區皆川延上に一分目の絲綫を張る、第三區木板上に一分目の絲綫を張る、第四區一分目の金網、第五區皆川延、第六區蘭簾第七區苦簾

座の面積は何れも八、七五坪にして之に熟蠶二〇〇頭を放ち吐絲せしむ。左に成績を示せば、

試験區	蠶數	吐絲量
第一區	二五	三、二五瓦
第二區	二五	三、四〇瓦
第三區	二五	三、六〇瓦
第四區	二五	三、八七瓦
第五區	二五	三、〇五瓦
第六區	二五	三、三〇瓦
第七區	二五	三、三〇瓦
對照區	二五	三、三〇瓦

蠶體重並に羽化したる成蠶の産卵數を比較せば次の如し。

對照區	蠶體重(對照區)瓦	産卵數(一蛾平均)
第一區	二五	五、二五
第二區	二五	五、四〇
第三區	二五	五、六〇
第四區	二五	五、八七
第五區	二五	五、〇五
第六區	二五	五、三〇
第七區	二五	五、三〇
對照區	二五	五、三〇

板狀に吐絲の狀態はしきりに管繭の場所を求めて四方に遁亡せんとす。

吐絲開始及化蛹は普通上簇のものに比し一日遅れたり。吐絲の難易は各區間に大差認め難きも絲綫使用が比較的容易なる如し。吐絲量は各區大差なく、平均三、九七瓦にして普通上簇區四七、九瓦に對し七八%強なり。

即ち不自然なる狀態なる爲めに吐絲並に絹質物の分泌機能を書かれたるなり。而も之の體內に殘存せる絹質物の爲に化蛹を困難ならしめ、エネルギーの損失を大ならしめ化蛾行ひ難く爲に蠶蠶を多くし、而も産卵數を減少せしめたるなり。

要結、板狀上簇區は普通上簇區に比し一、吐絲中並に化蛹前の蠶數多し。二、吐絲量約二割餘減ず。三、化蛹期を一日遅らし、而も化蛹不能蠶多し。

四、蠶體重輕く且つ産卵數少なし。

以上の如くであるが此の收絹法は品種改良と相伴ひて今後一層の研究改良により將來の期待多く、繭の生産制限及乾繭保管に頭痛鉢巻の今日自他共に以上以上の考究を要す可き事を信ず。文意の至らざる遠く尾藤大兄に謝す。

(八月三十一日)

### 石井鶴三先生の逸話數項

京城 B 生

母校創立廿五周年記念を控へて吾等が慈父針塚先生の肖像建設が實現したのは千五百名の兄弟が眞情の發露として誠に喜ばしい事である。而も高潔な先生の像を刻むに之亦無慈悲淡藝術を己が全生命として居られる石井鶴三先生の手を以てすることは頗つたり叶つたり誠に人選當を得たりと言ふべく委員諸先輩の御骨折に満腔の謝意を表す次第。

石井鶴三先生の人と爲りは千曲時報六月號に精しく掲げられてあつた故それ

外の隠された挿話の二、三を拾つて見るのも此際万更無意味な事でもあるまいと敢て鈍筆に頼つ。石井先生よ悪しからず御諒承の程を。

佛國が獨逸の大彫刻家(名は聞き洩して了つたが)が來朝の節日本の彫刻家の製作部屋が見たいと言ふ希望を容れて石井先生の處へ案内した人がある。その時石井先生は頭を下げるでもなく何の爲來られたかを聞くでもない。先方の顔を凝視した後徐に傍の鑿を取上げ日本の彫刻家はこゝ言ふ風に力を入れるぞと言はんばかりに一刻目の前で鑿を入れた處その彫刻家はつこり傾き己も鑿を取上げ一刻して見せ満面に笑をたゝへつゝ歸られたとか。その間一言の言葉すら發せず而もその彫刻家の歸國後の日本見聞記には藝術には言葉はいらぬ鑿の動きを見せてくれた事により日本の彫刻を知つたと記載してあつたと言ふ。その彫刻家の慧眼もさる事ながら一言の言葉すら發せず先方の希望を知り鑿の動きによつて意志表示された石井先生の藝術的才能は全く驚嘆の外はない。

巴里より

古谷 榮藏

拜啓長らく御無沙汰致し缺禮之段御宥免被下度候。今や酷暑の御左右同上候。愚妻よりの通信に據れば御地方米は上る蠶絲は下るにて殊の外不景氣の由大衆諸君定めし御困りの事と恐察仕り居候。蠶絲の値下りどこまで行くものにや心痛之事に候。しかし絹絲に對する愛着は人絹等の世に多くなればなる程愈々深まり行く様少くとも當巴里にては明に看取出來申候。現に今夏巴里にトールサイユにて各國見本市開催せられ候節蠶絲にて出品致候。尤も小生の見るところでは出品物は中等もの及絹紡などに止るべきものはあまり無之候も日本絹の評判は素晴らしきもの有之候。品が良くて廉いは日本絹に對する常識に候。かゝる事情故近來佛蘭西向輸出非常なる増加と相成候。

先生は常に言つて居られる。『食ふだけの収入があればそれでよい。儲けなり像なりに對する報酬として何も法外な代金を貰ふ必要はない』と。無慾恬淡藝術に金生命を打込んで居られる先生の面影が躍如としてその言葉の中にあふれて居る。新聞小説の挿話のペン畫も必要から生れ出た力強い藝術心の發露であり挿話界に一新機軸を與へられたのである。大毎連載の國定忠治のペン畫の力強さ、全く敬服の他何もない。而も小説のヒロインを美男子に書くのは價值上有効な事には違ひあるまいがそれをありのまゝの醜男ずんぐりの忠治に書かれたのは國定村へ出掛けられて調べられた先生の藝術に對する眞摯の努力より生れ出た自信からであつたらうが好く先生の作品の力強さを知らる事が出来る。

新聞の挿話が一枚〇〇圓になるのは當然の事であるが挿話執筆中夫人が病床の人となられた事がある。その入院の費用を兄石井柏亭諸伯に無心せられた處兄柏亭氏から『近頃新聞の挿話を書いて居る様だがそれなら月〇〇圓の金が入る筈である所近時佛佛談合の結果伊太利に特惠を與へ日本絹の輸入を抑制せんと致居候。之れにはある政治的交換條件あるやにきゝ及び候。水は高きより低きに流るゝもの少しばかりの堤防はやがて決潰致すは自然の理一寸景氣の立直る間が水の溜る間に候。聞く所によれば英國は已に景氣恢復の曙光相見え候様子アメリカに於て多少何となく見直しなば無論對米利加行は復舊すべく絹織物の輸出を貿易の一大宗とする佛蘭西またこのまゝ日本絹絲に締出を喰はし居る譯にはまゐらざるべく候。こゝしはらしくの辛棒海に已むを得ぬことに候。願ひみれば出發以來一年餘何もかも思ひにまかせず、多々として進まず。先に來られし諸君の過たしし收穫を得られたに比し何となく汗瀝の至に候。佛蘭西諸も生來の豚兒會話は終に駄目わづかに讀み書きが少しばかり出來る様相成候のみに候。近頃は豫て在田中心掛け候細菌の研究を佛譯致居り候。何れをどうした』と言はれ病床の夫人にその事を質し初めて自分の収入が相當ある事を知られたと言ふ無慾恬淡を物語るに足る逸話もある。

院展同人木村武山畫伯が病床にある時一日ふらりと見舞に來られた石井先生の差出された見舞の品が何とぞうづらの卵が數個、他の人達のやれ果物籠だやれ花籠だと言ふ中にあつて、聊か果氣にとられた。附添の人からうづらの卵が體によいと聞かれてその日早朝より東京を歩き廻つて生み立ての新しいものゝみ集められたのだと後程知れ一同先生の恩情に泣かされたと言ふ。以て先生の友情が細い注意の下にあふれて居るのを知る事が出来るであらう。

亦木村武山畫伯重態の報に接し驅付けられた石井先生が『今死なせ度くない死なせてはならん』と口癖の様に言はれて居た故家族の者が『お仰せの様に今死なれては小供も未だ大きくない今後全く困る』と告げたら『それこそうだが現在の畫界の爲今少し生きて居て貰はねばならぬと言つたまでだ。そうか。考へれば小

れ歸朝の上は和田氏に御叱正を願度しと存居り候。先生よりも同氏に宜しく御鶴聲願上候。最早伊太利瑞西方面をすまじ候間獨乙方面に見學に参り度と存じ約一ヶ月の豫定を以て明後日出發致すことゝ致候。御承知の通り獨乙方面は今日ではドゥフスあすはシュライヘルと云ふが如く暗殺騒ぎにて少々物騒らしく候も之れ却つて面白かるべしと思ひ居候。拙書到着の頃は已に舊聞に屬する事に候もヒンデンブルグ大統領數日來の病氣にて(實際病氣)昨朝九時他界せられ候。洵に惜むべき巨匠にて有之候。本日ヒットラー大統領(首相如故)に就任(憲法を無視し新法を勝手につくり)とのラジオ放送有之候。彼のやうな事の一例が實現したるまでと存じ候。獨乙は先生の思出の多き所小生参り候はまた變りし姿の繪ハガキにも御目にかくべく候。(後略)(八月二日附 學校長宛)

供も未だ大きくなつて居なかつた』と初めて小供の事を思ひ出された程先生の頭には藝術の事以外には全く何ものもなかつたらしい。之の一事でも如何に先生の藝術に對する考の熱烈である事が知れる。

先生は彫刻を加藤雲先生に學ばれた事は前號掲載によつて記憶に新たなるものであるが加藤先生に師事せられて居た頃一日加藤先生御夫妻の外出中留守を預つた石井先生連日の精進に疲勞されたか遂に午睡の夢を。氣の付かれた時は空巢狙ひの奴が筆箱の中から加藤先生御夫妻の衣類を引張り出して悠々立去るうとしる。驚いた石井先生彫刻の像を持來り泥棒の前に座り『此像は銀座の何處々々々持参すれば〇〇圓は呉れる。之を遣るから師匠のものには指一本付けて呉れるな。その代り此の自分の作像に對して紹介狀を付けて遣るから』と理を説いての頼みにその泥棒もすつたり先生の師匠に對する恩情に打たれ遂に一物を得ずして歸つたと云ふ逸話もある。

聞き知つた事を先生の御承諾も得ず而も臆面もなく書き並べた事に對して先生のおとがめを受ける事に違ひあるまいが亦先生の度量よく此鈍筆を寛されるに違ひあるまいと勝手な理窟をつけて……。

人格と人格と結付く處よく校長先生の愛のポーズを見出し得た。今は兩先生の御健康を蔭ながら祈りし肖像の出來上るを心待ちに待つ事としよう。(七、二九)

故佐藤雄次郎君を憶ふ

長谷川 正雄

八月の千曲時報によつて知友佐藤雄次郎君の急死を知り愕然として長嘆嗚咽を禁じ得ない。人生朝露の如しとは言へ誠に致へなき御最後であつた。全く御氣の毒のことである。

憶ふに佐藤君がら學窓出發以來數奇の運命に奔弄され盡して一生を終られた人は同窓の内に少いであらう。

私が佐藤君に始めて逢つたのは大正十一年の櫻の花の頃であつた。私と同じ上田の蠶業學校から來られたので直ぐ好いコンパになつて仕舞つた。

佐藤君は群馬縣北甘樂郡南牧村の蠶種製造家の令息で有名な荒船風穴の庭屋家へ養子されたので上田時代は庭屋の姓を名乗つて居られた譯であつた。

雄鹿を聯想させる様な端麗な姿で何れかと云ふと清柳の質の方で日頃の動作も趣味も貴族的で上品な君であつた。然し身内に流るゝ血液には上州人特有の火の様な氣概がたぎつてゐて流石に長脇差の後裔だと思はせる事も時々あつた。

學校から一日の休みを利用して戸隠へ日戻りの山登りをしたことがある。里程と時間の都合で奥社までの豫定で出掛けたが奥社へ着くと佐藤君が急に劍の刃渡から八方睨み走りくと言ひ出して何う止めても午後二時頃から一人で出發して仕舞つたので同行の私達も佐藤君に引きづられて遂に八方睨み迄登りそれから柏原驛まで殆んどかけ足で構内から飛び込んでやうやく最終列車に間に合つたが其の次の日は足がゴム礎のやうに腫れ上つて二日も這つて歩いてゐた位である。總てが之の調子で氣位も高く仲々のきかん坊であつた。あのきかん氣の氣性が遂に君自身の死を殊更に早めたではなかつたかとも思はれる。家業を繼ぐ爲めに大正十三年の四月歸國して後、庭屋家から離籍したと言ふ挨拶があつたが其の後突然臺南から手紙を呉れた。先輩の後へ就職したとの事であつた。其の當時氣候の悪い所で不安心と思ふが様子は何かと聞く

と大丈夫だから心配するなと非常に元氣のよい返事だつたので安心して居つたが今にして考へると臺灣の瘴癘の氣が身體に障つたではなかつたか?

餘り健固でない身であり乍ら亜熱帯の臺南へ行つた事情や心境は佐藤君自身でなければ知る由もないが随分無理をして意氣だけで働いてゐた様である。

臺灣から歸つて北信の郡農會へ赴任の際一寸寄つて行つたが其の時には已に學生時代のやうな淺薄さが失せてゐた様に思はれた。郡農會の方を病氣で止めて歸つた後二年位たつて埼玉の本庄町昭榮製絲から再び元氣な手紙を呉れて盛んに特約組合の増成に努力してゐるとのことであつたから多分身心共に更生し得たこととすつかり安心し切つて居たのに、急に訃報を聞くととは全く夢のやうである。

本庄に勤めてゐたのも無理押であつたのかも知れない。あの純眞無垢の風にも當てたくない様な佐藤君が僅か十年の間に(運命の悪戯か?)佐藤—庭屋—佐藤—臺灣—北信—病魔—製絲場—死。何んと急テンボの變遷流轉であらう。學生生活を終る迄あんなに順調に育つて來て來た君が其の後の歲月は殆んど世の風波に揉まれ續けて精も根も盡きて、憔悴の裡に死んで行つたのである。之れが人の世の姿か?嗚呼、佐藤君には郡農會に居た當時から苦樂を共にした奥さんがある筈だ。佐藤君は家庭の事を一切明さない癖があつたから些し判らないが一家の柱石を失つた御遺族の方々の事を思へば一層心が暗くなる。全く涙なしには居られない。

蛹から石油製造

會員の一青年學徒が生絲の廢物蛹から石油製造に成功したと云ふニュースが新聞に見えたから御報告申上げる。それは熊本市肥後製絲會社に勤務中の平山俊夫氏(絲十九)で熊本醫大生化學教室に於て蛹に就て研究の結果見事良質の石油を製出する事に成功し蛹油の八十%の石油が得られたと報じてあるが之が經濟的に完成の曉は不況の蠶絲界に一大光明を與へるのみならず國防上にも一大効驗を與へたものと云はねばならぬ。

上田便り

上田商工會議所新築 市役所の一部を間借してゐた上田商工會議所は漸く多年の宿望叶ひ原町二丁目に新築される事となり七月十四日地鎮祭を執行した。建物は工費二萬二千圓の豫算で五間に十四間の二階建と附屬建物で本館には五間に五間の商品陳列館も設けられる。今秋迄に完成の豫定。同時に此の間を通つて原町から松尾購買組合前に抜ける道路も開鑿される筈である。

七夕祭り 八月六日の市中は赤青白黄緑の紙をつけた竹のトンネルとなり美觀を呈した。七日の朝の千曲川は竹の枝を捨てに來た河童連で賑つた。よく水死人があるのが今年は一人もなかつた。

農民道場講師決定 本年より開場される縣立御牧原農民道場の講師は夫々八月七日附にて任命されたが其の内本會員は左の諸氏である。

小林進(農商課)、鶴田定平(蠶絲課)、松村季美、金崎眞英(蠶業試験場) うち盆の行事 八月十二日より十六日迄が上田地方では盆の盆である。十二日は草市、十三日は魂迎へ十六日に魂送りをする。此の間に半年分の義理を盡す意味の御中元が交され又半年の借金掛借の催促をされる。十五日十六日は小僧さんの藪入で賑つた。

菅平生物研究所の開所式舉行 會員八木博士の主唱にかゝる東京文理科大學の生物學研究所第一期工事準備研究室は二千五百圓の工費を以て建設中の處此程竣工八月十五日午後一時より開所式を舉行した。同所の研究項目は主として亞寒帯に生育する生物の全般につきて最新の研究實驗を進むるのみならず進んで有用生物の應用的研究調査を遂げて日本並に滿洲兩國の産業開發に貢獻せんとするものであると云ふ。

防空展覽會 八月十五日より三日間に亘り上田市公會堂に於て昭和青年會上小聯合會主催の下に防空展覽會及愛國映畫會が開かれ丁度數人とおすな／＼の大盛況にて非常なる感響を與へた。

スポーツ王國菅平 オリムピック派遣候補選手候補者廿五名は八月十二日より二週間 早大ラグビー選手五十名及法大選手各五十名が二十日より二週間、此の外に廿六日には鐵道省ラグビー團、松坂屋ラグビー團等が菅平に來りスポーツの鍛練に精進してゐる。此の處菅平はスポーツの龍兒の觀がある。尙上田市警ゲランドでは廿二日から十日間の豫定で商大ホッケー部の練習が行はれてゐる。

松尾町交番移轉 我々に馴染の深い松尾町交番は現在の場所では種々不便があり移轉を叫ばれてゐたが今一回い／＼上田驛前に移轉改築される事となり八月十八日午前九時地鎮祭を行ひ、二十七日から工事に着手した。同建物は總工費千二百圓、二階半に三間のコンクリート二階建の堂々たるものである。

津田鐘紡社長來田 鐘紡が信州に紡織工場新設の計畫があり既に諏訪に一個所決定したが尙北信にも新設の意向があるらしいので上田 長野、丸子等で猛烈なる招致運動が行はれつゝあるが上田市には母校石倉講師、及菅澤代議士の骨折に依り津田鐘紡社長の工場豫定地視察となつた。即ち八月十八日津田社長は菅澤代議士の案内に依り長野市を経て午後三時三十分上田市に來り工場設置候補地を視察した。之れに依つて上田市へ建設は確實性を帯ぶるに至つた。

北上州に出張歸郷 上田蘭絲會社では昨年群馬縣歸郷村へ始めて出張所を設けた處好成績を挙げたので本年も八月廿二日より出張所を同村大從公會堂に開設してあるが同地方は年一回の收購に拘らず生産高二萬貫から昨年五千貫が同出張所で取引されたので本年は少くとも一萬貫に達し他の残りは田中方面の蘭絲又は仲買人の手に賣却されるものと見られるが上田商人の漸次北上州に進出目醒しきは喜ぶべき現象である。

下水路工事完成 上田市では今春來市内海野町北大手町間の下水路を二萬五千九百四十圓の經費を以て工事中の處完成見したので八月廿四日落成式を行つた。

佐久鐵道省營となる 佐久鐵道は愈々九月一日から省營となるが小諸—小海間は小海北線と改稱され旅客運賃は從來七十六錢だつたのが四十九錢となつた。同線は簡易線としがソリソリを運轉し上田迄乗入れの計畫もある。

維新を語る赤松展 上田市が生んだ維新學の大家として嘗て桐野利秋、故郷元帥、野津、上村兩將軍を始め明治の偉人の師として仰がれた故赤松小三郎先生の遺墨、遺品展覽會及講演會は九月二三日の兩日に亘り上田中學校友會、上小教育會、上田史談會主催のもとに上田中學校に開催されたが、講演會の講師は上田市助役柴崎新一氏 展覽會の出品物は百數十點に及び何れもその先覺者として

の偉大さを物語るもの許りである。秋蘭取引 上田蘭絲は九月五日から信濃蘭絲は六日から秋蘭取引を開始した。明治天皇北越御巡幸記念日 九月七日は明治天皇北越御巡幸記念日に當るので上田市では各戸國旗を掲げ行在所駐たる市役所にては記念式を行つた。

菅平にスキーの申込 菅平高原は目下キャンパーやラグビー選手で賑つてゐるが早くも今冬のスキー申込のトップを切つて東京府立第五中學校の三十名、東洋モスリン會社の廿五名、東京ドッドウェル商會十五名が上田溫電會社に申込みあり。此の冬の賑ひが豫想されてゐる。

倉澤運平氏近況 小縣郡別所村倉澤運平氏は今春來胃腸の爲め東京帝大病院眞鍋内科に入院加療中の處九月五日午後二時五分逝去された。享年六十九才、同氏は現在本縣蠶絲業組合長、大日本中央蠶絲會評議員の要職にあり縣下蠶絲界の重鎮である。又母校卒業式には必ず臨席せられ其の特長ある祝辭は記憶尙新なるものがある。

菅平高原の秋

九月—菅平高原には、もう涼風が立つ。見渡すかぎりの草原は、秋の草花で彩られた。白、紅、緑、黄、紫、等々。高く風にひるがへる淺間の噴煙銀色に光る雲さ風、黄枯れた北信牧場—蠶を高原の風に振はせて躍る數百の馬、晴れ渡つた紺碧の空を震はせて唸る牛の群。馬鈴薯は、畑の土の中で丸々こ肥つて來た。蕎麥の實は鋭角形に結晶してこぼれ落ちる。栗、黍は黄金の房を垂れた。キヤベツはわれわれが身を包み初めた。高原の山麓の部落では、秋の收穫に忙しくなつて來た。手も足も眞黒に日焼けした農夫達は、

あちらの蕎麥畑に、こちらの薯蕷畑に鳥のやうに散らばつてゐる—ギラツギの秋の夕日に光つた。枯草の中から飛び出した山兎はそよそよ微風に驚いて又枯草の中に隠れた。黒點のやうな鳥が一羽、高原の枯草に、腹もすれ／＼にして淺間山の方へ飛んで行つた。高原の十一月—かくて、菅平の秋はます／＼閉じてゆく。信濃なる菅の荒野を飛ぶ鶯のつばさもたわに吹くあらしかな—(加茂眞淵) 高原にはそろ／＼冬が近づいて來る。四阿山や猫岳の頂上にはもう白いものが見える。山麓一帯に展開された雄大な銀盤上に粹なスキーヤーの躍るのを見るも遠くはないであらう。(上田溫電—大金生)



母校ニユース

倉澤教授研究費を交付する 母校教授倉澤美徳氏は八月四日附を以て文部省自然科學研究費として金三百圓を交付され、たが其の研究題目は『信州特北信地方に於ける昆蟲相の研究』と云ふのである。

戸部正久氏榮轉 養蠶科病理部副手の同氏(蠶十九)は突然群馬縣蠶業試驗場に榮轉去る八月廿七日赴任されたが同場新設病理部の爲め専ら奮闘される筈である。

蠶一養蠶實習終了 養蠶科一年生三十五名の飼育實習は八月三十日收繭全部終了同三十一日實習は終了した。本年は特異に冷涼なる氣候のため五齡末期より上簇にかけ暖房を用ひ繭質は春蠶繭に劣らぬものを得た。尙紡織科よりの依頼により始めての試みとして板狀吐絲法を試験した。即ち蠶室六室を開放し床を紙張となし周圍をトタン箱にて圍ひ一室一万二千頭の蠶を放ち平板吐絲を行はしめた。營繭させるものより吐絲の時期は一日位遅れた。斯くして約三貫目の板狀繭を得たが幾多の良き經驗を得る事が出来た。熟蠶の過半数を板狀吐絲に用ひしため繭としては約三十貫を收繭した。



上田市 三井寫眞館撮影

た方がよいから乃至近頃賣出しの板狀收繭に依つた方がよいかは問題である。此の試験を養蠶科山口助教授、紡織科香山助教授協力の上行ふ事となり原料は養蠶科で作り紡織科で製品とし其の歩留品質等を試験する事とし既に八月下旬より着手した。斯くの如き試験は原料から製品迄一貫した連續を有する我々にのみ行ひ得るものである。之に着手して程なく紡織工業會が過繭繭一千万貫を紡績原料に購入する意志を發表したと云ふ事を新聞で知つた。(寫眞は板狀收繭の實況)

過繭繭一千万貫を絹紡工業が購入を蠶聯へ斡旋を申込む

絹紡工業會委員長三村和義氏外一名は農林省明石蠶業課長に件はれて九月三日東京丸之内蠶絲會館に全國蠶聯聯合會を訪れ片田主事と會見過般農林省に陳情した趣旨に基き絹紡原料として過繭繭約一千万貫を一圓十錢乃至一圓三十錢見當で購入したき意向を傳へて養蠶聯合會の斡旋方を依頼し、片田主事は考慮を約し別れた。

右に付き全國蠶聯聯合會では慎重審議の結果、目下繭絲價格に重壓を加へつゝある過繭繭を絹紡原料に供用するは單に窮境に悩みつゝある蠶絲業者を救済するのみならず繭の新規利用として國內絹紡工業の發展を促進せしむる上に適策なりと態度を決定したが將來絹紡原料として安價に生産し得る繭は兎に角今年度産繭はその生産費當り少くとも三圓

二學期開始と養蠶科休暇

九月一日より第二學期開始となり久し振りに一入黒く元氣になられた諸氏の顔が見え工場からは機械の響きが聞こえ始めた。それに代つて八月の寂寥の母校の孤壘を守つてゐた養蠶科は秋蠶を終へて九月一日から十日迄休暇に入つた。十一日からは各科華々しく授業が開始せられる譯である。

石倉講師米澤高工に出張教授 紡織科石倉講師は米澤高等工業學校の依頼に依り十月三日より一週間の豫定にて出張絹絲紡績を講義せられる事となつた。

絲二秋繭乾燥實習 製絲科二年は九月六日から十一日に至る六日間本年度最終の秋繭乾燥實習を行ふ。繭の購入豫定數量は大體三〇〇〇疋である。

蠶絲學雜誌出來 本會發行蠶絲學雜誌七卷一號が出来た。内容は二面掲載の如くである。

蠶絲業不況對策に對する學校長及井上教授の意見 長野縣蠶業試驗場にて發行する蠶業要報九月號は特輯一號として左の記事のみのせてあつた。

特輯號發行に就て 水井 壽一郎 蠶絲業の將來並に其不況打開策 針塚 長太郎 繭は亡ぶべきか否繭の眞價を味へ 井上 柳 何れも玩味萬金の記事では非時報にも轉載したかつたが何分にも量が多いので残念ながら中止し題目のみ御目にかけらる次第である。

以上を要してゐる實情にあるから工業會よりの申込値段で取引する事は養蠶農民現時の窮狀に照して到底耐へ難きところなりとし此の際

一、政府に於て相當價格を以て過繭繭を買上げ之を絹紡原料として一手に拂下げるか  
二、或は養蠶業者が紡績原料として共同處分を爲す場合之に對し相當額の補助金を交付  
されれば政府に陳情する事となり四日右の旨書面を以て岡田首相、藤井藏相、山崎農相に陳情した。

養蠶科三年卒業製作題目

- 一、天柞蠶飼育法及び尺蠖の生態學的研究 西澤正一 小松茂男 伊藤幸男 瀧澤幸
- 一、桑葉腐敗菌の培養試驗 鈴木 茂 青木 幹夫
- 一、殺菌劑の藥害に就いて 繼塚 好作 中村 一喜
- 一、桑の代用植物に就いて 江口 嘉清
- 一、夏秋蠶に於ける一二化交雜種試驗 守屋 一郎
- 一、太陽光線の蠶兒に及ぼす影響 米澤 俊吾
- 一、卵細胞分化の遲速と繭並に卵諸形質の相關 古平 義雄 横山 忠夫
- 一、屋外育に於ける桑葉成分の變化と發育との關係 渡邊嘉博 水野 義男
- 一、溫度の激變が蠶兒の生理に及ぼす影響 小林 敏 比田井政治
- 一、稚蠶用桑の貯藏法 鈴木 重孝 酒匂 景雄
- 一、箱飼に關する試驗 青木 深 半田 義雄
- 一、雄花と桑葉の灰分の分析 坂口 育三 吉池權五郎
- 一、滿鮮經濟調査 鈴木正一郎 大山 融
- 一、伊豆地方蠶絲業經濟調査 田近 肇 藤田 四郎
- 一、上小地方經濟實地調査 淺川 茂樹
- 一、蠶兒絶食中に於ける蠶兒消化管内細菌繁殖の消長に就いて 國島 正
- 一、桑葉内に於ける細菌數と蠶兒消化管内に於ける細菌數との關係 服部 令吉
- 一、硬化病豫防劑の生理的影響試驗 羽吉 正雄
- 一、生理的障害に依りて生ずる膿病多角體の傳染性 藤井 宗雄
- 一、蠶兒健康劑の二三に就いて 森山 甫 藤井 宗雄
- 一、桑葉中のグイタミン檢出 白土孫七郎 韓 治鍊
- 一、乾燥桑葉粉末の添食試驗 多田 作造 岡島 龜治
- 一、ステープルファイバーの染色堅牢度試驗 北野 三郎
- 一、絹紡絲に於て綿長の相違が撚縮及切斷強力に及ぼす影響 飯田 喜雄
- 一、アセテート及銅アンモニヤ人絹の試験管的製造 小澤 利雄
- 一、綿絲の溫度及濕度を種々變更したる時のリゲンを求む 河村 信夫
- 一、毛絲紡績工場的设计 木下 重政
- 一、上田産織物を分解し原絲染色製織整理方法の調査 木山 新一
- 一、絹紡スライバーに於て番手及綿長を種々變更し抜けざるに至る撚の限界點を求め同時に適當なる撚數を決定する 柴田 久
- 一、精紡機のスピンデル用テープに關する調査 野尻 巴
- 一、フライヤー撚絲機の片側を飾絲撚絲機に改造し同時に飾絲の研究 細井 政吉
- 一、ステープルファイバー織物の研究 中野 六郎
- 一、種々なる電燈の効率調査 山本 七郎
- 一、絹紡絲の單絲及絲番手を變へて最大強力撚數を求む 村橋 決
- 一、ステープルファイバー絲の研究 百瀬 文雄
- 一、縮繭に於て番手撚數打込數組織等を變化せしめその狀態を調査する 山本 七郎

母校陣容

(昭和九年八月三十一日調)

修身		教務		學務		庶務		圖書		會計		製絲		化學		物理		生物		農學		醫學		工學		機械		電氣		英語		國語		算術		常識		衛生		勞作		體育		音樂		美術		其他	
校長	針塚長太郎	教務長	井上柳梧	學務長	和仙太郎	庶務長	大瀧昭太郎	圖書長	佐藤利一	會計長	早川直	製絲	佐藤利一	化學	佐藤利一	物理	佐藤利一	生物	佐藤利一	農學	佐藤利一	醫學	佐藤利一	工學	佐藤利一	機械	佐藤利一	電氣	佐藤利一	英語	佐藤利一	國語	佐藤利一	算術	佐藤利一	常識	佐藤利一	衛生	佐藤利一	勞作	佐藤利一	體育	佐藤利一	音樂	佐藤利一	美術	佐藤利一	其他	佐藤利一
教務主任	井上柳梧	學務主任	和仙太郎	庶務主任	大瀧昭太郎	圖書主任	佐藤利一	會計主任	早川直	製絲主任	佐藤利一	化學主任	佐藤利一	物理主任	佐藤利一	生物主任	佐藤利一	農學主任	佐藤利一	醫學主任	佐藤利一	工學主任	佐藤利一	機械主任	佐藤利一	電氣主任	佐藤利一	英語主任	佐藤利一	國語主任	佐藤利一	算術主任	佐藤利一	常識主任	佐藤利一	衛生主任	佐藤利一	勞作主任	佐藤利一	體育主任	佐藤利一	音樂主任	佐藤利一	美術主任	佐藤利一	其他主任	佐藤利一		
教務主任	井上柳梧	學務主任	和仙太郎	庶務主任	大瀧昭太郎	圖書主任	佐藤利一	會計主任	早川直	製絲主任	佐藤利一	化學主任	佐藤利一	物理主任	佐藤利一	生物主任	佐藤利一	農學主任	佐藤利一	醫學主任	佐藤利一	工學主任	佐藤利一	機械主任	佐藤利一	電氣主任	佐藤利一	英語主任	佐藤利一	國語主任	佐藤利一	算術主任	佐藤利一	常識主任	佐藤利一	衛生主任	佐藤利一	勞作主任	佐藤利一	體育主任	佐藤利一	音樂主任	佐藤利一	美術主任	佐藤利一	其他主任	佐藤利一		
教務主任	井上柳梧	學務主任	和仙太郎	庶務主任	大瀧昭太郎	圖書主任	佐藤利一	會計主任	早川直	製絲主任	佐藤利一	化學主任	佐藤利一	物理主任	佐藤利一	生物主任	佐藤利一	農學主任	佐藤利一	醫學主任	佐藤利一	工學主任	佐藤利一	機械主任	佐藤利一	電氣主任	佐藤利一	英語主任	佐藤利一	國語主任	佐藤利一	算術主任	佐藤利一	常識主任	佐藤利一	衛生主任	佐藤利一	勞作主任	佐藤利一	體育主任	佐藤利一	音樂主任	佐藤利一	美術主任	佐藤利一	其他主任	佐藤利一		

校友會記事

夏期練習開始 庭球部は八月二十一日より柔道部及野球部は廿五日より其他の各部は九月一日より秋の運動シーズンを迎へて暑さも物かは猛烈なる練習を開始した。

對東京高麗庭球部 母校庭球部は部長清水教授に引率され九月五日東京高等蠶絲學校に遠征したが武運揃く四對一のスコアを以て破れた。因に出場選手は左の五組である。

(木下) (神崎) (天野) (兒玉) (叶保井) (鈴木) (宮崎) (藤田) (宇田) (久保井)

支會通信

千曲會福島支會臨時總會

吾等の日頃敬慕して居る母校長針塚先生が久し振りに東北蠶業視察の爲め御來縣の報に接したのは六月中旬の事であつた。以來鶴首して先生の御來縣を待ちましたのであつた。

先生は七月十日朝四時上田を御出發せられた由で同日午後八時青森行急行で福島驛に御着きになつた。取り敢えず在福同窓數名と共に飯坂温泉泉洲閣に投宿された。其夜弓田、万石、阿部の諸君と自分分は久し振りに先生の溫容に接し晩餐を共にした。旅の疲れも打ち忘れて先生には昔變らぬ元氣で語り或は教訓を垂れられ一同感激胸に迫るものがあつた。話は夫れから夫れと盡くる所を知らず散會した時は夜半であつた。明くれば七月十一日朝から暗雲低迷全く陰鬱なる梅雨模様、雨をいつて先生には吾等と共に福島縣廳、福島商檢定所、蠶紡製絲工場、日東紡績福島工場、國立蠶業試驗場福島出張所、片倉蠶種製造所を歴訪種々視察をなし更に篠つく際雨を犯して還く伊豆郡梁川町に至り縣蠶業試驗場、蠶種業組合立梁川蠶業講習所等を視察し全く席温まる暇なく一巡された。縣よりは佐藤蠶絲課長も自ら出て、御案内下された。針塚先

生は朝大波らさぬ視察に意見の開陳に一日の活きた學問振興只々益々先生の活動振に感佩の外はなかつた。朝の八時より午後五時半迄の視察は福島縣蠶桑業の一斑を御覽になつたに過ぎぬが少くとも蠶桑打開に活動しつゝある福島縣の大要を御覽りなされた事と推察した。

宿に歸るや既に千曲會員令や遅しと待ちかまへてゐたものは左記の通りで縣内各地の會員を網羅し福島縣としては近來稀なる出席率で千曲會福島支會の臨時總會としては將に空前の大會であつた。

齊藤 軍二君 弓田 弘君  
笠原 重雄君 富田庄三郎君  
萬石安太郎君 阿部 和君  
鹽入 國治君 桑原與四右衛門君  
高須 兵衛君 水野 敏夫君  
富田 治衛君 小林辰 夫君  
大越 信君 湯淺 文雄君  
富岡 秀君(東京支會)  
高橋義三郎君(宮城支會)  
梁川講智所影山眞藏氏

夕刻五時より總會議事に入り田附支會長辭任後事務取扱であつた萬石君より議事の審議を進められた。

一、經過並に會計報告の件  
二、會費徵收に關する件  
三、支會役員改選の件

支會の幹事は會津縣南濱通各一名伊達五名とし幹事の互選で支會長を決定した。役員氏名は前月號に報告して置いた。議事終つて午後六時より懇親會に移つた。先づ支會長の開會の辭に次いで校長より例の慈愛のこもる訓で挨拶があり、草深き陸の奥久方振りで會合無禮講で背に還つて飲まふてはないかと云ふ様な譯で痛飲談不景氣も吹き飛ばさんずる勢であつた。木會のなナカノリサ何ヤラホイの木會節、取れた取れたと蘭がタント取れた……の伊那節も出る、デカシヨ……で……も出ると云ふ様な昔の學生に若選つて大いに唄つた。宴中ばにして辭筆を振ふて記念の署名をした。踊る、歌ふ、飲む、語る。其處には難境に

處して地まざる母校の一脈相通じたる精神が籠つて居る事を思ふ時全く其の純真誰か快哉を叫ばざるを得ざらんや。慈父の如き我が針塚先生を中心に校運の隆昌を期して乾盃萬歳三唱散會した。將に福島支會更生の感を深からしめた。會員諸氏は此の興奮を胸に秘めて會津に、縣南に、伊達に、信夫に夫々歸途についた。

翌七月十二日早朝床を蹴つて出て先生は浴後揮毫數幅悠然佳趣を得られた事と思ふ。食後車を驅つて其の昔源義經辨慶等が京を逃れて北國より陸奥に至りて初めて旅装を解き忠信の菩提を弔ひし藤原氏の居城鶴城跡の麓なる醫王寺に詣て、忠信繼信兄弟の墓を拜し昔を偲びつゝ山形に向はれた。

以上は簡にして其の喜びを盡すことを得ぬが母校針塚先生東北蠶桑視察の機會に更生の努力に醒めたる福島支會の將來を思ふて概況を報告することにした。

(高須生)

高須生

叙任辭令

昭和九年八月廿五日 副手 戸部 正久  
昭九年八月三十日 公立實業學校教諭 江頭 辰雄  
七級俸當分千四百八拾圓下賜 花岡 作彌  
七級俸當分千五百五拾圓下賜

廿五周年記念事業

會計より御通知

一、かねて御願して置きました記念事業贈出金第一回集金を今月末に致したいと思ひますから萬一御不在でも間に合ふ様御願ひ致します。(尙一時納入の會員は任意で差支へありません)而して集金に對する領收證は時報上に報告し別に各人へは差上げませんから之れも御承知願ひます。

追而振替郵便御利用の場合には千曲會通當會費と混同しますから振替時金口座長野六二四三番を御使用下さい。

一、贈出金の申込も會員各位及支會の御盡力により漸次豫定額に達しつゝありますが尙欠念してゐる會員もあり申込書紛失にて御困りの方もあると思ひますから其の向は左記書式により至急御申込願ひ度う御座います。

申込書  
母校創立二十五周年千曲會記念事業費  
一、贈出金 口(金) 圓  
二、納入方法 第一法 一時拂  
第二法 分納(集金郵便)  
科 回率 氏名

贈出金納入者第四回(八月廿一日) 在  
金參拾圓(完納) 折茂正太郎(蠶一)  
金貳拾五圓(〃) 篠田平三郎(蠶一)  
金貳拾五圓(〃) 田中 康雄(蠶四)  
金貳拾五圓(〃) 貞包 新(蠶六)  
金貳拾五圓(〃) 橋本 武光(蠶七)  
金拾五圓(〃) 谷川 海造(蠶十二)  
金拾五圓(〃) 關 只(蠶十三)  
金拾五圓(〃) 井澤 喜三(蠶十六)  
金拾五圓(〃) 北澤 孝一(蠶十六)  
金拾五圓(〃) 坂口 正信(蠶十八)  
金拾五圓(〃) 都築 清治(蠶二十)  
金拾五圓(〃) 甲斐 孜(蠶二十二)  
金貳拾五圓(〃) 原田 侃(蠶五)  
金五圓(〃) 恒川 芳保(蠶十)  
金五圓(〃) 中津信一郎(蠶十一)  
金五圓(〃) 内藤 次郎(蠶十四)  
金拾圓(完納) 栗野慎一郎(蠶十六)  
金拾圓(〃) 石井 公男(蠶十七)

贈出金申込者第四回(八月廿一日) 在  
十口(一名十口金額五十圓也)  
唐澤 正平(蠶二)  
八口(一名八口金額四十圓也)  
鈴木 敦吾(蠶八)  
六口(一名六口金額三十圓也)  
高橋 善吾(蠶一) 桂 應 祥(蠶九)  
五口(一名五口金額二十圓也)  
矢澤茂登一(蠶一) 朴 壩 變(蠶一)  
箕輪 貞三(蠶一) 林 新一(蠶二)  
安孫子文彌(蠶三) 長瀬 深見(蠶五)  
岸野 潤一(蠶五) 木内 保平(蠶二)  
府川 作平(蠶二) 塚田 鎮磨(蠶二)  
甲斐 雅(蠶三) 神保 喜久(蠶三)  
横田 節樹(蠶四) 須田國之助(蠶四)  
安井 義忠(蠶六) 榎原 春彦(蠶八)  
四口(一名四口金額十圓也)  
太田慎一郎(蠶六) 金兒 文夫(蠶六)  
貞包 新(蠶六) 齋藤 含(蠶七)  
森本爲之助(蠶七) 三好 圭一(蠶八)  
金 容泰(蠶十六) 山口 貞周(蠶六)  
陶山 專三(蠶六) 山田 勝衛(蠶七)  
楠田元之助(蠶七) 甲田 勝衛(蠶七)  
萩野 俊一(蠶八) 依田寛之助(蠶十)  
三口(一名三口金額十圓也)  
三輪貞徳(蠶十三) 前澤康雄(蠶十四)  
石井謙三(蠶十一) 田口榮治(蠶十二)  
稻田 實(蠶十二) 若井 弘(蠶十二)  
内藤次郎(蠶十四) 吉松 千秋(蠶六)  
二口(一名二口金額十圓也) 二百七十圓也

氏家忠次(蠶十四) 小山哲夫(蠶十四)  
北澤孝一(蠶十六) 坂口正信(蠶十八)  
百瀬哲一(蠶十八) 河瀬益美(蠶十八)  
市村志眞(蠶十八) 若林 榮(蠶十九)  
町野 巖(蠶十九) 田口恒夫(蠶二十)  
町田史郎(蠶二十) 赤池勝男(蠶二十)  
應野貞雄(蠶二十) 齊藤 監(蠶十六)  
栗野慎一郎(蠶十六) 神崎碩夫(蠶十七)  
太田良信(蠶十七) 宮野保夫(蠶十七)  
飯濱 榮(蠶十八) 赤松與一(蠶十八)  
千葉達人(蠶十八) 中島熊保(蠶十九)  
小澤正一(蠶十九) 瀧澤幸司(蠶十九)  
井田英夫(蠶二十) 山本幸三氏  
山口昌雄氏  
一口(一名一口金額十圓也)  
準會員  
一、口(十五名十五口金額七十五圓也)  
宮島 是 市川 幸 小宮山 糸  
倉島 貞子 市川 光枝 市川 たつ  
高橋 善 柳澤 みや 宮澤 いち  
宮島志壽子 橋本 綱子 兒玉 光子  
一之瀬信子 吉口 治子 古谷カナエ  
合計人員 八十六名  
合計口數 二百六十一口  
合計金額 一千三百五圓也

會費領收報告

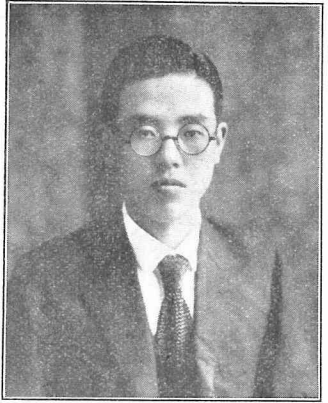
九年度通常會費納入者

(〇印は蠶桑學雜誌代共)  
〇貞包 新(蠶六) 古東 幹太(蠶六)  
後藤 仙彌(蠶九) 清水 衛敏(蠶六)  
中島角太郎(蠶五) 宮本 豊彦(蠶五)  
〇田口 亮平(蠶七) 〇坂口 正信(蠶六)  
〇神原 敏男(蠶九) 都築 清治(蠶廿)  
〇渡邊 正男(蠶廿) 高橋 康輔(蠶七)  
〇堀 忠太郎(蠶九) 松井 正次(蠶五)  
〇内藤 次郎(蠶五) 〇關 嘉四郎(蠶五)  
〇宮崎 康男(蠶七) 永島 豊(蠶七)  
荒木 横澤 平(蠶五)  
未納會費納入者  
金拾四圓也 湯川 秀夫(蠶一)  
金拾四圓也 高橋 善吾(蠶一)  
金五圓也 神原鶴次郎(蠶四)  
終身會費免納者  
高橋 善吾(蠶一) 神原鶴次郎(蠶四)  
誤認訂正 前月號千曲會規則第九條第三項に依る未納會費納入者の項に於ける(〇印は蠶桑學雜誌代共)は(〇印は五圓其他は四圓)の誤に付き訂正す



計報

故佐藤雄次郎氏近影



弔慰金募集廣告

本會々員 佐藤雄次郎氏(遺孀十一) 豫而御病氣の處養生不相 叶七月十日遂に御逝去被 致候間此段本紙上を以て 及御通知候也

追而有志弔慰金は九月末日迄に 取廻め御遺族へ贈呈可致候間便 宜上振替口座東京第四三三三一 番へ佐藤氏弔慰金の旨御明記の 上御拂込被下度候 昭和九年八月十五日 上田蠶絲專門學校 千曲會

故上原安夫氏弔慰金二回

金參圓也 神原 敏男  
金壹圓也 北澤 茂 倉澤 美徳 宮坂 收  
秋山武一郎 和田 利彰 工藤 實司  
竹内 善吾  
合計金拾圓也  
總合計金五拾圓也  
故金澤文也氏弔慰金一回  
金壹圓也 蒲生 俊興 牧野金治郎 堀江 結城 鎮男 清水 衛敏 渡部 北島 正生 新穂 利信 關 市川 清 長谷川正雄 金五拾錢也 内藤 次郎 合計金拾壹圓五拾錢也 故佐藤雄次郎氏弔慰金一回

故三谷徹氏記念 資金寄附者芳名

九月六日現在  
金四圓也 長谷川正雄  
金貳圓也 飯島 正胤 佐藤 義助 門平潤一郎  
金壹圓也 細野信太郎  
矢島隆之助 小山 久一 岡部 康之  
稻田 實三 辰男  
合計金拾七圓也  
金拾圓也 丸茂まさ江 森 淳太郎 山口 貞周  
大久保秀治郎 清宮 保  
金七圓也 沖 壽治  
金六圓也 永井 榮  
金五圓也 大審 政平 甲斐 敦 中津信一郎  
鈴木 誠一 鈴木 敦吾 遠藤 文平  
岡村 源一 塚田 鎮磨 神保 喜久  
長池 遊龜 清水 二郎 甲斐 肇  
楠田元之助 肥後 俊彦 松井 清三  
的場 小六 陶山 專三 吉澤 武夫  
中村 守太 甲田 勝衛 織田 博  
高木 三治 石井 清六 兒玉 忠雄  
金參圓也 重松 延造 都筑 賢吉 天津茂登一  
府川 作平 高橋 善吾 木内 保平  
岸 勝郎 佐藤 壽雄 桂 木一 應祥  
石井 謙三 一志藏人 久保田嘉一郎  
安井 義忠 河井 正 横山 英一  
市川 清男 佐藤 種雄 木下 とき  
村田 信宣 土岐 宣治 卷島庄之助  
鹽原 克巳 栗野慎一郎 大久保久逸  
古谷カネ 澁谷まさ江 須田 圭二  
湯澤 重敬 松尾 順策 杉野 壽一  
大木 定雄 加茂 まき 手塚芳太郎  
渡部 齊 酒井五十三  
金貳圓五拾錢也 笠原 正巳 笠原 義人  
金貳圓也 金貳圓五拾錢也  
川村 五郎 清水 衛敏 西山 省  
松村 恵一 水野辰五郎 竹内五之助  
關 嘉四郎 佐々木崇二 福島綱治郎  
大塚 重藏 桐原 達郎 渡邊 資造  
宮城 長雄 千葉 達人 青木 幸雄  
茅野清三郎 小笠原安重 河合 英一

謹告

故三谷徹君は東京蠶業講習所及上田蠶絲專門學校に職を奉ずること三十有餘年一意専心子弟の教養に盡力せられ我蠶絲業界に貢献せる功績の多大なるは普く人の知る所なり。今や業界の非常時に際し同君に尙期待する所極めて大なるものありしに不幸昨夏病を得療養は努められしも其の効なく去る三月四日東京に於て長逝せられたるは誠に痛惜の情に堪へざる所なり。茲に一同相謀り君の功績を永遠に傳へ且は御遺族慰安の一方法として汎く資金を募集せんす。希くは發起人の微衷を諒せられ左記要項御承知の上奮て御賛助あらんことを。 昭和九年七月 金壹圓以上 (一ヶ月延期) 上田蠶絲專門學校内故三谷徹君記念資金管理會 林貞三宛(振替貯金口座東京四三三三一番) 御郷里へ建碑其他 詳細は實行委員に一任願ひ

會員動靜

(九月四日現在)

(轉宅轉勤の御通知は速に、なるべく勤務先名、役名、住所を記せられたし)  
尾崎 利雄 蠶一八 (勤)岡山縣後月郡井原町 岡山縣蠶業取締所井原支所  
戸部 正久 蠶一九 (勤)前橋市前代田 群馬縣蠶業試驗場  
萩野 俊一 蠶一八 (住)京都府何鹿郡以久田村字位田  
馬場 政友 蠶一〇 (住)長野縣小縣郡鹽尻村  
半田 辰猪 蠶一三 (住)福井市外圓山東村下四ツ居 訂正  
角 益巳 蠶一四 (住)神戸市灘區灘北通八丁目六ノ一  
和田 貞章 蠶一六 (勤)長野縣諏訪郡川岸村三澤 片倉九七工場  
小池 益巳 蠶一七 (勤)長野縣諏訪郡三原町 片倉三原製絲所  
兒玉 逸夫 蠶一八 (勤)熊本縣上益城郡廣安村 島崎木山工場  
福島 喜藏 蠶一八 (勤)群馬縣澁川町上ノ町二〇二 町田三郎方  
山部 小平太 蠶一九 (勤)東京市京橋區入船町三ノ五 宇野商店  
菅 芳文 蠶二〇 (勤)佐賀縣鳥栖町 片倉製絲紡績株式會社鳥栖工場  
加來 通文 蠶二〇 (住)山口縣阿武郡須佐町下ノ町  
野 喜通 蠶二一 (住)東京市赤坂區青山北町六ノ四六  
坂入 長治 蠶二一 (勤)岸和田市北町九五 岸和田紡績株式會社本社工場  
小幡 剛全 蠶二二 (住)三重縣南牟婁郡木本町 本田舞堂方  
今吉 朗全 蠶二五 (勤)岸和田市北町九五 岸和田紡績株式會社本社工場  
本田 圭吉 蠶二六 (住)三原縣南牟婁郡木本町 本田舞堂方  
宮脇 信二 紡一〇 (勤)朝鮮京城府光化門通 逕信局航路標識係



准會員 (住) 滿洲國吉林省敦化縣綏陽川驛警務段  
玉井 光全 (勤) 岡山縣英田郡江見村 日東製絲株式會社江見工場

千曲會々員名簿に付き急告

千曲會々員名簿は數年前から毎年七月現在で發行されて居りましたが今年は編輯部の都合で九月現在の名簿を發行する事となりました。  
千曲時報八月號には篤之氏の『千曲會々員名簿に對する注文』が登載されましたが編輯部に於てもその趣旨には賛成ですが現状維持の方が却つて都合がよいと云ふ意見もなか／＼多いので迷つて居ります。就きましては尙ほ大方の御意見を伺ひ致します。若し篤之氏の御意見に賛成者が多い様でしたら豫算の都合もあり来年度の名簿(来年度は七月中に發行の豫定)から改正いたします。尙ほ其他に會員名簿に對する注文がありましたら御遠慮なくお聞かせ下さい。  
本年度の名簿は目下編輯中ですが間に合ひましたら訂正いたしますから最近の移動は至急千曲會名簿係宛御通知下さい。  
(須田生)

編輯室より

◇どんなに日中暑くても朝夕はともて涼しい。むしろ寒い位だ。もう何時の間にか秋になり切つてゐる。信州の秋は實に

宗 式 煮 繭 機

宗 式 多 條 機

特許TM式ストーカー

特許TM式コールセンター

製絲機械器具一般

設計請負

高崎市赤坂町七六番地

坂路商店

電話 一二〇九番  
振替口座東京六六六番

御來田のお土産は

みずり 上りのフルーツ  
杏ゼリ! テョコレット  
晒水 黒羊羹  
杏羊羹 クルミ羊羹  
信濃そば 果物類 罐詰

上飯島商店

電話二六〇・二五四

御宴會に 御會食に

レストラン

香青軒

明期な洋室 落付いた

和室 (數室)

上田市袋町 電話13番

千曲會指定旅館

上村ホテル

上田市海野町  
電話三二七番

紡織、蠶絲、レーヨン、電気、理化學  
其他諸機械器具、冷凍機械裝置、  
設計及製作

旭工業商會

正會員 飯島貞雄

東京市芝區田村町三ノ七  
電話芝(四三)一七二八

◇既に原稿を印刷所へ廻してしまつてから到着した御寄稿が三編にも及んだ。本紙は原稿を六日に締切つて八日に印刷所へ渡す(掛値のない正直な處で)事になつてゐる。それ迄に間に合ふ様御送附あらん事を切にお願ひする。一日か二日の違ひで一ヶ月遅れその結果掲載の意味がなくなつたりする事があると實際申譯無い様な氣がする。

京 染

領受牌金賞等一會覽博於

染賃が今迄の半額以下

御一報次第(御年齢記入)京染新柄見本と營業案内を御送りします。それに依つて御好を御覽下さい

有名な京染が御家庭から京都染元直接に注文が出来る様な便利になりました。染元直接なるが故に染賃が半額以下で出来ます

まだ御存知ない御方は是非一度御試し下さい

徳岡の京染はナゼ安いのか御客様……京染問屋徳岡直接だからです

外の京染はナゼ高いのか御客様……注文取……地方京染店……京染問屋だからです

自生地類は卸値で差上げますから地方より二三圓安く御手に入ります

御注文先より御禮狀毎日續々到着

各府縣産業組合御締約染元

京都市下京區高辻通大宮西入

目課業營

京染吳服  
自生地卸  
西陣織物

京問合資  
屋會社

徳岡總本店

振替 大阪 六三六二八  
電話 福岡 一五七四六  
下 二九一六

小役員募集 申込次第委細通知す